
行歯会だより -第51号-

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会) 2009年11・12月合併号

【今月の記事】

- 少子高齢化時代の歯科保健について（千葉県市原市・藤田）
- 第19回全国歯科保健推進研修会に参加して（滋賀県・小幡）
- 新理事の独り言（宮崎県・森木）

『少子高齢化時代の歯科保健について』

～第79回市町村を対象とするセミナー～

千葉県市原市保健センター 歯科衛生士 藤田美由紀

このセミナーは、平成11年度から市町村厚生労働行政交流研修事業として開始された。市町村に関連の深い厚生労働行政をテーマに取り上げ市町村職員間相互及び市町村職員と厚生労働省職員間で情報や意見等を行うことを通じて、市町村が地域の特性に応じた保健福祉サービス等の向上を図るために必要な情報や企画立案の手法を得る機会を提供し厚生労働行政に関する考え方や行政需要等を把握し、厚生労働の企画立案に資することを目的として開催されている。

今回のセミナーは全国から100名を超える参加があったが、特に千葉県からの参加（全体のほぼ1/4）が多かった。職種も様々で、歯科医師、歯科衛生士だけでなく、保健師、栄養士、事務職、教育委員会などの参加もみられ関係者の関心の高さが伺えた。

日 時：平成21年10月2日（金）13：00～17：00

会 場：中央合同庁舎5号館（厚生労働省） 低層棟2階講堂

対 象：市区町村職員

内 容：①少子高齢化時代の歯科保健対策について

- ・ 社会保障制度の課題と展望

厚生労働省社会保障担当参事官室 竹林悟史

- ・ 少子高齢時代の歯科保健対策について

厚生労働省医政局歯科保健課歯科保健医療調整官 福泉隆喜

- ・ 歯科保健対策の現状と課題

厚生労働省医政局歯科保健課研修専門官兼歯科衛生係長 和田康志

②市町村における具体的取り組み例

- ・ 住民との協働による歯科保健活動の第一歩

千葉県市原市保健センター 高澤みどり

- ・ 平成21年度 浜松市歯の健康づくり（中区）

静岡県浜松市口腔保健医療センター 石川昭

- ・ 秦野市における口腔機能向上を目指した介護予防事業（特定高齢者施策）の取り組み

神奈川県秦野市高齢介護課 芦川紀子

③歯科保健と食育について

昭和大学歯学部口腔衛生学教授 内閣府食育推進評価専門委員 向井美恵

④要介護者等に対する口腔機能サービスについて

日本大学歯学部摂食機能療法学講座教授 植田耕一郎

概要：

まず、厚生労働省から「歯科保健対策を取り巻く現状と課題」として近年の歯科の健康水準の年次推移、在宅歯科保健医療対策、歯科保健と食育の在り方に関する検討会、介護報酬の改定を含む予算の説明があった。

少子高齢時代を迎え、住民のニーズも大きく変化し介護報酬の改訂による口腔機能サービス等、歯科保健分野では求められる分野の広がりがみられる。同時に8020運動の推進により歯科疾患の罹患状況については著しい改善がみられ高齢期の残存歯数は増加し、う蝕も減少傾向にある。今後、さらに高齢者人口の増加に伴い歯・口腔と全身との関連や食育などの取り組みの重要性も増加してくるとみられる。

次に、市町村における具体的取り組み例において3題の報告があった。まず市原市が住民組織の立ち上げについての発表を行った。住民・行政・地域が協働し、ともに取り組み始めた事例として、「歯っぴい8020応援隊」の紹介をした。養成講座から現在の活動に至る紹介だったが、住民自身楽しみながら意欲的に活動していることが、より周りを巻き込み広がりを見せていくことに繋がっているのではないかと推測される。また、浜松市の取り組みとして行政・歯科医師会の連携はもとより、薬剤師会とも連携して歯間部清掃の推進など住民の啓発につなげている事例紹介があった。さらに秦野市からは、市歯科衛生士が包括支援センターと連携し口腔機能向上サービスに取り組んでいる事例の紹介があっ

た。

最後に、なぜ今「歯科保健と食育」「口腔機能向上サービス」が必要なのか？このことに取り組むことで住民の健康にどのようなメリットがあるのか？歯科保健サービスは何を求められ何に取り組んでいくべきなのか？具体的な事例も含めて講演があった。

現在、歯科保健の抱えている問題やさらに少子高齢時代の問題が提起され、今後の行政の取り組むべきことを考えさせられる機会となった。他職種との連携や地域（住民）との連携をどのように進めていけるのかについて、たくさんのメッセージが込められていた。しかし、時間がおしてしまい質疑応答が十分に行えなかったのが少々残念ではあった。政権交代のあわただしい中厚生労働省の歯切れの悪さは致し方ないことではあるかもしれない。ただし、国と市町村が直接意見交換をする機会を持つことが難しい現状ではある。もう少し時間配分に考慮していただけるとなお良かったのではないかと感じた。今回のセミナーは他職種からの高い関心もみられ、今後の歯科保健分野に一石を投じる内容であった。今後も機会があれば積極的に参加したいと感じると同時に、行歯会の皆様にもぜひ参加をお勧めしたいと感じた。

第19回全国歯科保健推進研修会に参加して

滋賀県湖東健康福祉事務所 歯科衛生士 小幡鈴佳

平成21年11月20日、高知県立県民文化ホールにおいて第19回全国歯科保健推進研修会が開催されました。初参加でもあり、帰って来てホッとしていた矢先、井下先生より「レポート書いてー」と突然の依頼。突然の行歯会だより登場に、戸惑いつつも、以下のとおり報告させていただきます。お手柔らかにご一読ください。

「歯科保健指導に活かす行動変容の知恵」 早稲田大学人間科学学術院教授 竹中晃二氏

- ① 行動変容を促すための動機付けとして、正しい知識の提供のみではダメ。対象者へ寄り添い、対象者が自分と関連性があると思わないと、“きっかけ”とならない。
- ② 0か100でなく、積みあげる方式で考える。効果が出るまでには時間がかかり、じわじわと変化がおこる。少しずつ積み上げて結果に行き着くことが大切である。成功体験の刷り込み（簡単な目標から達成させ、達成感を感じさせる）代理的体験

(自分と同じような人が出来ている話を聞く)などが効果的。

「歯科保健を取り巻く最近の動向」 厚生労働省医政局臨床研修専門官 和田康志氏

＜概算要求の新規事業＞

① 在宅歯科医療連携室整備モデル事業

在宅歯科医療の推進のため、医科・介護関係者・住民の窓口になるような“連携室”の体制整備。予算上は全都道府県での実施を予定。箱物を作るのではなく、〇〇歯科センター等既存の施設に連携調整機能を付加させる。その体制づくりやニーズ把握のための予算。

② 成人歯科保健指導・健診モデル事業

個々の対象者に合わせた対応が出来るよう、重症度スクリーニングから歯科保健指導までを行う一連のプログラムをモデル的に実施。予防が主眼。

③ 予防・在宅歯科医療等対応教員養成講習費

在宅歯科診療や食育支援等に対応できる歯科衛生士を養成するため、歯科衛生士学校教員に対する研修事業。

※ 事業仕分けの“8020運動推進特別推進業”は“見直し”という結果なった。一定の理解があったという手応え。

実践発表「日本一のヘルスボランティアと協働した健康づくり」

岡山市保健所健康づくり課 河本幸子先生

岡山市の愛育委員や栄養改善推進員など健康づくりボランティア数は群を抜いて日本一！数だけでなく、活動内容も充実し、ボランティア相互が刺激し合っています！！

＜ボランティアとの健康づくりのポイント＞

- ① 課題・情報・目的を皆で共有する
- ② 会議を効率的に使う（①を達成する場となるようにする）
- ③ やりがいが実感できる活動を（実践発表）

「住民主体で取り組む介護予防」 高知市保健所健康づくり課 上田佳奈先生

高知市では、地域ごとにグループで毎週高齢者が自主的に集まり「いきいき百歳体操」「かみかみ百歳体操」に取り組み、平成18年度は42カ所だった「かみかみ」実施地

域が、現在は122カ所に！！ポイントは、県内で平成14年からじわじわと広げた「いきいき百歳体操」に併せて「かみかみ体操」を入れていったこと。住民主体というスタンスで、行政から実施のお願いしたりはしないこと。体操のモデルには、ちょっとごっついおばあちゃんのアイドル（介護福祉士さん）に協力してもらうこと。

懇親会の皿鉢料理も含め、お腹一杯の研修会になりました。高知の皆さんお世話になりました。

新理事の独り言(その47) 宮崎だより

宮崎県中央保健所 森木 大輔



行歯会のみなさまこんにちは。九州ブロックの理事となりました宮崎県の森木と申します。どうぞよろしくお願ひします。宮崎に来て早くも12年目となりました。

宮崎は、さんさんと降りそそぐ太陽、日南海岸に代表される青い海、雄大な自然など、心と体が癒されるところです。街にはフェニックスの並木が続き、古事記・日本書紀に登場する日向神話にまつわる名所や四季折々に咲き誇る花々など、たくさんの観光スポットがあり、地鶏や焼酎などのおいしい食べ物もいっぱいあります。東国原知事のトップセールスの下、ホットな注目をあびており、高千穂峡や神話や伝説の残る観光地が人気を集めるとともに、県庁が観光スポットとなるなどおかげさまで県外観光客が増加しています。ダンロップゴルフも開催されるなどゴルフも盛んで、都会と比べてゴルフ場も安いそうです。

さて、行歯会のメーリングリストは、もっぱら見ているだけの私だけですが、みなさまにはいつも有用な情報をいただき、ありがとうございます。

今は、基本的に歯科保健の担当ではありませんので、歯科以外の人たちと仕事をするこゝとばかりですが、介護保険や在宅緩和ケア、糖尿病、周産期医療、がん対策、脳卒中対策、特定保健指導など外から見ると、歯科保健、口腔ケアの大切さ、必要性をあらためて感じることができ、歯科保健の立場からあれもしたい、これもしたいとやりたいことがたくさん出てきます。なかなか動けないこともあります。今後は、いろいろな関係機関と連携していくことが一番大切だと思っています。

最近感じたことでは、先日、富山で開催された「むし歯予防全国大会」の韓国の先生の講演で、水道水フッ素化の事業開始時の住民のアンケート調査で、その時点です

で賛成が非常に多く、最初から住民が知っているんだと言うことに大変驚きました。聞くとフッ化物洗口実施の説明時に、水道水フッ化物の説明まで十分しているから。ということでした。自分がフッ化物洗口の説明するときこそまで水道水フッ化物の説明をしていたかなあと反省したところです。

また、宮崎大学医学部の看護学科の講義に毎年行っています（1コマだけですが）。歯科以外の職種の人に学生時代に公衆衛生的な歯科保健の話聞いていただくことは、今後の歯科保健の発展につながると思っています。実現していませんが、いつの日か教育学部での講義もしたいな（もしくはできれば誰かにやってもらいたい^^;）と思っています。うまくやっている地域がどこかありましたら教えていただきたいです。

宮崎市では、市保健所の櫛山先生が小学校フッ化物洗口実施に向けがんばっているところです。温かい目でうまくいくようにぜひ応援してください。

最後に、機会がありましたら、ぜひ観光やゴルフ、サーフィン、ダイビングなど宮崎に足をお運びください。私は日南海岸の鬼の洗濯岩でよく釣り竿を振っていますので、見かけましたらお声かけください。ポイント教えます。

年末・・・予算・・・等々でとうとう合併号になってしまいました。すみません。

クリスマス、お正月と控えておりますが、皆さま、風邪、インフルエンザ等に留意され、よいお年をお迎えください。【編集担当】

